

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400035		
法人名	医療法人NANOグループ		
事業所名	グループホームなずな		
所在地	長崎県雲仙市千々石町庚1297-1		
自己評価作成日	令和5年1月31日	評価結果市町村受理日	令和5年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人の為、日中は併設の施設に看護師が居る。夜間は医療連携体制加算を訪問看護ステーションと結んでおり、又、母体の菜の花クリニックに24時間看護師が居るので医療面での緊急は、素早く対応できる。また、医師が毎日往診で来られ同一敷地内にはデイサービスがあるので利用者は閉じこもることなくのびのびと生活できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは周囲を山や畑に囲まれた自然豊かな場所に立地している。隣接して同法人が運営するデイサービス事業所とサービス付き高齢者向け住宅があり、日頃より相互に交流している。運営母体が医療法人であり、医療機関の医師が毎日ホームへ訪問し、入居者の状態把握を行うほか、緊急時にも迅速に対応できる環境を整えており、入居者や家族に安心感をもたらしている。法人の理念に基づき、職員は入居者それぞれのペースに合わせた支援を実践している。管理者は、職員とのコミュニケーションの機会を多く持ち、相談しやすい雰囲気づくりと、職員の相談には迅速に対応し働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。コロナ禍で地域との交流を自粛しているが、以前は入居者が近隣の小学校の運動会に参加したり、地域の商店街と連携してホームで買い物を楽しめるよう企画するなど、地域との繋がりが深いことが窺え、コロナ禍収束後の更なる交流再開が待たれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームなずな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見えやすい所に掲示する事で職員みんなで共有し、必要があれば話し合い実践に繋げている。	法人の理念である「一人一人の意思及び人格を尊重し自由に安全に生活できる」をもとに、入居者一人ひとりのできる事、できない事を把握し、入居者のペースに合わせて声掛けや支援を行っている。サービスの質を落とさないよう、理念に基づいた目標の設定なども検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は近くの小学校の運動会に参加できる時は参加していたがコロナ禍で交流出来ないが併設のデイサービスと一緒に行事を行うことで交流を図っている。	コロナ禍以前は近隣の小学校から運動会への参加案内が届き、入居者が参加していた。現在は運動会への参加はできていないが、小学校の広報誌が定期的に郵送で届いている。隣接するデイサービス事業所との交流は継続しており、コロナ禍収束後は小中学生の職場体験の受け入れも行う方針である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に家族に向けて行っているが地域の方から相談があればその都度支援の方法などを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告や取り組みを報告し、話し合いを行い意見を頂くことでサービスの向上に活かせるよう努めている。	コロナ禍ではあるが集合形式の運営推進会議を行っており、ホームと各委員と相互の意見交換ができています。管理者は会議前に職員と会議で報告する内容などを確認している。運営推進会議議事録は、ホームの玄関に設置し、いつでも閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市町村の方の参加があり事業所の取り組み、状況を伝える他、市役所に出向いた際は福祉課の方と積極的に話し関係を築いている。	市福祉課の担当者が運営推進会議に参加し意見交換ができています。また、日常的に行政の窓口で会話をするようにし、情報交換や共有ができています。最近では入居者のマイナンバーカード取得について相談し、リストを提出するなど、良好な関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する内部研修を行ったり、外部の研修会があれば積極的に参加している。また、職員一人一人が身体拘束廃止を心掛け身体拘束をしないケアの取り組みを心掛けている。	身体拘束に関する指針を整備し、定期的に研修会を行うことで、身体拘束を行わないケアの実践に努めている。昨年は車イスでの拘束について研修会を行った。声掛けに対しても身体拘束にならないよう心がけ、職員が互いに注意し合いながら声掛けを行っている。	現在は経過措置期間であるが、今後、虐待防止の指針を整備し、運営規程にも「虐待の防止のための措置に関する事項」を明記し家族にも説明できるよう取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がるようなケアが行われていないか、見過ごされることがないように注意しながら虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護推進委員の研修を受けそれらを活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解していただけるよう丁寧に説明し、不安など聞かれる時は安心して納得していただける様、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の方に参加していただき意見、要望を聞き職員で共有し運営に反映させている。	ホーム玄関に意見箱を設置している。尚、コロナ禍で面会が少ないこともあり家族等の意見はない。介護計画の見直し時や、入居料金の支払い時などに家族へ入居者の状態を伝え、意見を伺うようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会は設けずいつでも管理者は職員の意見・要望・提案を聞き代表者に伝えることで運営に反映させている。	管理者は日頃より職員とのコミュニケーションを図ることを心がけており、その都度職員の意見を聞いている。入居者の状態に合わせた車イスの購入や、職員の腰痛軽減のためベッドを変更するなど、意見に対して迅速に対応している。ハラスメント対策にも取り組み、働きやすい環境整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度人事考課表や管理者からの報告を受け状況を把握している。また、職員一人一人が向上心をもって働ける様、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で法人外に研修を受けに行く事が難しくWeb上での研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でweb上での交流になるが勉強会などを通して質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望などを傾聴し安心していただける様心掛けサービスを提供出来るよう関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望など傾聴し面会時などで日頃の様子や状態など伝えることで関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話をよく聞き必要なサービスを見極めその人に合ったサービスを提供できる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを見つけ協力し合い時にはさりげなくフォローし喜びを分かち合う事で関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などで状況を伝え問題などを家族と共有することで本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染防止対策を行いながら可能な限り家族などの面会など受け入れ関係が途切れない様に努めている。	コロナ禍にて面会は玄関先で行っている。デイサービス事業所の利用者がホームへ入居した後も引き続き馴染みの関係があったデイサービス利用者と面会するなど支援を行っている。年賀状のやり取りや、折り紙や編み物など入居前からの趣味や得意なことを継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し手作業など一緒に行うことで孤立せず支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実績はないが必要に応じて相談や支援をしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者から希望など聞き把握しているが意思疎通が困難な利用者は日々の関わりの中で思いなどを推し測る様にしている。また、ケアマネと職員が情報を共有し支援に努めている。	入居時に本人へアセスメントを行い、入居後は普段の会話の中から意向を伺っている。入居者の居室や入浴介助の時など1対1で会話ができるよう工夫している。家族に対し、支払い等で訪問した時に入居者の状態を報告し、思いや意向を伺うようにしている。	職員は入居者の思いや意向の把握に努めているが、情報共有は口頭による伝達のみとなっている。本人の思いや意向はその方の状態が変わっていくものである為、記録として常に更新し、共有できるよう工夫することが望ましい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境を入居前に詳しく聞きこれまでの生活が継続できる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズム・心身の状態等を職員間で情報共有し状態の変化の応じた対応ができる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から意向や要望を聞きケアマネと職員で何が必要か話し合い介護計画を作成している。支援内容については定期的に検討し見直している。	居室の担当職員と計画作成担当でカンファレンスを行い、介護計画を立案している。立案した計画から、目標やサービス内容を個人カルテに記載し、毎日の支援や記録をする際に、職員が確認できるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践など個別記録に記入し定期的に評価をすることで介護計画を見直している。状態変化など情報共有することで見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関など専門職にアドバイスを受けながら連携を図り、その時のニーズに合わせ柔軟に対応できる様取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で外出できない為、地域の衣料用品店等に訪問していただき自分で服を選び購入していただくなど楽しむことができる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人で緊急時にもすぐ対応できる様、入所時に説明し主治医を変更していただいている。歯科・眼科などはかかりつけ医への受診希望があれば、送迎・立ち合い、ご家族への報告を行っている。	ホームのかかりつけ医を入居時に説明し、ホームの協力医へ変更することを家族へ依頼している。毎日、医師が訪問し、緊急時にも対応できる体制を整えており、ホームは医療連携加算を取得している。病院受診の前後には家族へ報告を行っており、入居者・家族の安心感に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に報告・相談を行い必要に応じて母体の医療法人を受診出来る体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内外を問わず、主要の医療機関関係者と連絡を取り、入院時等スムーズに情報交換出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期の在り方について、事業所内で出来る事を説明し、その様な状況になった時再度説明を行い、治療方針など家族と共有している。	看取りについては入居時に家族へ説明し、同意を得ている。看取りに関する指針を整備し、定期的に研修会を行っている。協力医との連携を密に図り、入居者が終末期に住み慣れたホームで安心して安楽な生活が送れるよう体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署立ち合いの元、避難訓練を行っている。AEDの使い方などの勉強会も開き、急変時に対応出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に消防署立ち合いの元訓練を行っている。近隣の敷地を避難場所と使える様お願いしている。	定期的な避難訓練では、隣接するデイサービス事業所やサービス付き高齢者向け住宅と日中を想定した合同訓練を行い、夜間を想定した訓練をホーム単独で行っている。近隣の地域住民にも協力を依頼している。ホームの廊下にはハザードマップを掲示し、職員へ常に災害対策への意識づけを図っている。	定期的に避難訓練を行っているが、避難場所の職員周知に不十分さが窺える。有事の際に迅速に行動できるよう、災害時の避難場所については職員も含め家族等にも周知を図ることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、女性入居者が排泄、入浴時は、女性職員が対応しプライバシーの確保に努めている。また、言葉使いにも注意を払いながら対応している。	排泄や入浴介助は通常同性介助を行っている。居室のポータブルトイレやオムツは、外部から直視できないように衝立やカーテンを使用するなど、プライバシーに留意している。職員による声掛けも入居者個人の性格を考慮した言葉づかいや、耳元で話すなど配慮している	ホーム便りなどへ入居者の写真を掲載する際は、家族に対し口頭による説明のみではなく、同意文書としても残しておくことが望ましい。また、トイレに置いている尿取りパッドなどは、プライバシーの観点から他者から見ても分りにくいよう目隠しをするなど配慮することが望ましい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で、本人の思い・希望などを聞き出せる様に努めている。生活していく中で、活動など可能な限り自己決定出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者1人1人のペースを大切にしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り自分で洋服を選んでいただき、介助・見守りが必要な時は職員と一緒に選り、お洒落を楽しめる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム裏にある家庭菜園で出来た野菜を収穫し、手作りの食事を提供。野菜の下ごしらえなど手伝ってもらい、職員と楽しみながら行っている。	食事はホームで手作りのものを提供している。メニューは食事担当職員が作成しているが、入居者の希望に合わせてメニューを変更することもある。入居者の誕生日にはケーキのスポンジを購入し、入居者と職員で飾りつけを行い、楽しみながら提供している。ホームの菜園で収穫した野菜を使用する事も入居者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や食事形態は好みや咀嚼状態に応じて個別に配慮している。水分制限のある方は看護師と相談しながら支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け誘導し、自分で出来る方は見守りを行い、介助が必要な利用者は職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、失禁前に声掛けトイレへ誘導し、排泄の失敗やオムツ使用の軽減につながる様支援している。	職員は排泄チェックシートを用いて入居者毎の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。昼夜オムツを使用する方でも、日中は可能な限りトイレでの排泄を促すよう支援している。リハビリパンツなどの物品は、入居者の状態に沿って使用するよう日頃から検討し、その都度対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品などを摂取していただく事で自然排便を促しているが、それでも出ない時は腹部マッサージやホットパックで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上を心掛け体調や希望に応じて入浴していただいている。体調不良で入浴出来ない時は清拭を行い、清潔保持に努めている。	入浴は週2～3回を基本としているが、本人の希望に応じて毎日でも入浴する事ができる。入浴拒否があった場合は、声掛けする職員や時間帯を変えて対応している。季節に合わせて、ゆず湯や菖蒲湯などを行い、入居者が入浴を通じて楽しみが持てるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人のペースで過ごしていただきながらなるべく日中は活動していただく。夜間に良質な睡眠がとれる様、生活リズム作りを働きかけ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋をファイルに綴じ、職員がいつでも目的や副作用など確認出来る様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴や得意分野を把握し、家事やその他の活動などで役割を作り、気分転換につながる様支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は施設周辺を散歩するなどしていたが、新型コロナウイルスの影響で外出も難しく買い物など支援は行っていない。職員が買い物したり、必要に応じてスーパーに配達を頼んでいる。	コロナ禍前は定期的買い物に出かけていた。ホーム周辺の散歩は日常的に行っている。デイサービス事業所の利用者と交流したり、地域の商店街の協力を得て商品をホームに持ってきてもらい、入居者に直接買い物をしてもらうなど、コロナ禍で外出を自粛している中、可能な範囲で楽しみが持てるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方は少額の金銭を自己管理していただいているが、入居時に家族へ説明・同意を得て事業者で管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話したり携帯電話など制限せず自由に家族などに連絡出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースに空気清浄機を設置し衛生保持に努める他、新型コロナウイルス感染症対策も行っている。また、共用スペースに季節の花や飾りなど居心地よく生活出来る様工夫している。	共用スペースは毎日掃除機かけを行い、10日に1回はモップで水拭きを行っている。感染対策として手すり等の消毒や換気を定期的に行っている。壁面には入居者と一緒に作成した季節の飾りつけを行い、入居者が室内でも季節を感じられるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人の居場所を大切に、気の合った者同士で過ごせる様テーブルの配置を工夫し会話を楽しめる居場所を作り工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時使用していたタンス等の家具、大切な写真、なじみの品物を持ち込んで頂き安心して空間作りをしている。	居室は共用スペース同様、毎日の掃除機かけと定期的なモップ掛けを行っている。居室には入居者が使い慣れたテレビやタンスなどを持ち込んだり、家族の写真などを飾ることで、居心地の良い空間となっている。また、入居者の状態に合わせて家具等を配置し、安全に過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ安心して生活出来る様に随所に手摺りを設置し、自立した生活が送れる様環境作りに努めている。		